

AIに負けない力を育てる



～乳幼児期の遊びの大切さ～



AIにだって負けない、科学的理論に基づき、発達心理学の第一人者が贈る究極の子育てメッセージ。



子育てに「もう遅い」はありません。AIに負けない非認知能力(忍耐力・社会性・感情コントロール)はどうしたら育つ? 最新の脳科学や心理学の知見に基づき乳幼児期～児童期の子育てについて講演していただきました。

講師: 伊豆大学 教授 名譽教授
お茶の水女子大学 名譽教授
十文字学園女子大学 名譽教授
内田 伸子 先生

「AIに負けない力を育てる」

脳科学、発達心理学の知見に基づき、最新の脳科学や心理学の知見に基づき乳幼児期～児童期の子育てについて講演していただきました。

「非認知能力」の重要性

「非認知能力」は、AIに負けない力を育てるために重要な要素です。

対話(Dialogue)は「相手とリスム(聞き)を共有することによって成立する」

相手のことを聞く(hear) - 聞く(Listen) - 聴く(Listen) - 丁寧に聞く

リテラシーの習得に経済格差は影響するか?

1. 読書と書誌
2. 読書能力に収入による差が顕著化する

第一次認知革命(生後10ヶ月)

1. イメーシの誕生
2. 記憶し、思い出すようになる
3. 物認識「モノの同一性認識」が始まる

※得意分野の性差

女の子は男児より左脳の成熟が速い

聞く(hear) ... 聞きとして聞く(Listen) ... 丁寧に聞く

リテラシーの習得に経済格差は影響するか?

1. 読書と書誌
2. 読書能力に収入による差が顕著化する

しつけスタイルと読書能力

読書能力が高い子どもは、共有型しつけを受けており、読書能力が低い子どもは、強制的しつけを受けている。

離園校突破組で最難関国家試験突破

小学校就学前にとても意欲に取り組んでいたこと、思いやり溢れること、遊びの時間を子どもと一緒に過ごすこと、子どもの得意好きなことに集中して取り組むこと。

非認知能力 ⇔ AIに負けない力

子どもが3~4歳の時点、特に、幼少期～小学校低学年の経験(生活・遊び)によって決まる。

子どもの非認知能力を育てる親の役割

- 子どもに寄り添う安全基地 <信頼関係>
- その子自身の進歩を認め褒める(他児と比べない、3分・5分・10分・15分・20分・30分)
- 「生き字引」のように余すところなく定義や解説、回答を与えない。
- 「裁判官」のように「判決」をくださない ⇒ 禁止や命令ではなく「提案」を!
- 子ども自身が考え、判断する余地を残すこと ⇒ 自律的忍耐力そして「非認知能力」!

しつけスタイルと読書能力

読書能力が高い子どもは、共有型しつけを受けており、読書能力が低い子どもは、強制的しつけを受けている。

離園校突破組で最難関国家試験突破

小学校就学前にとても意欲に取り組んでいたこと、思いやり溢れること、遊びの時間を子どもと一緒に過ごすこと、子どもの得意好きなことに集中して取り組むこと。

非認知能力 ⇔ AIに負けない力

子どもが3~4歳の時点、特に、幼少期～小学校低学年の経験(生活・遊び)によって決まる。

子どもの非認知能力を育てる親の役割

- 子どもに寄り添う安全基地 <信頼関係>
- その子自身の進歩を認め褒める(他児と比べない、3分・5分・10分・15分・20分・30分)
- 「生き字引」のように余すところなく定義や解説、回答を与えない。
- 「裁判官」のように「判決」をくださない ⇒ 禁止や命令ではなく「提案」を!
- 子ども自身が考え、判断する余地を残すこと ⇒ 自律的忍耐力そして「非認知能力」!



参加者からは「とてもためになるお話、ありがとうございました。日々、子育てする中で強制型でのしつけをしてしまうことも時々あります。自由にさせたい気持ちがありながら、「ダメ!」とやめさせてしまうことがあるので、もう一度子どもと対話しながら子育てしようと考えさせられました。」「今、1歳11ヶ月の男の子を保育園に行かせていますが、本当にこのころの発達の進み方は個人差があると感じます。私の息子はマイペースですが、園でいっぱい刺激を受けて楽しそうにしています。家での関わり方も大切にしながら、子育てを楽しんでいこうと思います。」「子ども主体の遊びや親の声かけの重要性をテーマのもとに説明していただき実感しました。今後の子育てに生かしていきたいです。」「毎日、子どもと一緒にいる中で、私自身の心の余裕が無かったり、生活時間の都合で夢中になっていることを途中でやめたり、大きな声で叱ったりすることも多いことを、今日のお話を聴く中で、反省しました。子どもがずっと話していると、家事で忙しい時はつい相手することを避けてしまいがちですが、できる限り子どもの気が済むまで向き合っていきたいと思いました。」などととても好評でした。

